

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	スーフィズム・イスラーム聖者信仰の展開をめぐる国際会議開催に伴う教員招聘
<b>代表者名</b>	東長 靖（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）
<b>事業概要</b> (600 字程度)	<p>本事業は、イスラームの思想・実践の解明を目指す研究国際会議を開催するものである。イスラームを構成する諸要素のうち、とくにスーフィズムと聖者信仰の問題に焦点を当てて、その思想、儀礼、社会的役割などについて検討する。</p> <p>会議開催にあたっては、フランス国立科学研究センター（CNRS）と提携する。CNRS から招聘する研究者以外に、学生による研究発表を行う。その際には CNRS 所属の研究者をコメンテーターとし、学生の国際会議でのプレゼンテーション能力を高めることを目的とする。また、学生には研究発表までにフル・ペーパーの作成を義務付け、英語論文の書き方も指導する。</p>
<b>成果の概要</b> (800 字程度)	<p>本事業では、当初の計画に基づき、CNRS の Thierry Zarcone 主任研究員および Rachida Chih 主任研究員を、2016 年 1～2 月に招聘し、1 月 31 日に京都大学において”Sufism, Saint Veneration and Tariqa Movements in the Islamic World”と題した研究国際会議を実施した。ここでは、上述の両氏に加え、別経費で招聘した Quentin Giroud 氏（フランスで博士課程在籍）、丸山大介氏（防衛大学校准教授）、井上貴恵氏（東京大学大学院博士課程）が研究発表を行い、スーフィズム・聖者信仰に関する議論を行った。事前にすべてフルペーパーの提出を求め、それに基づいたプロシーディングズも刊行した(<i>Sufism, Saint Veneration and Tariqa Movements in the Islamic World</i>, Center for Islamic Area Studies at Kyoto University, 2016, pp. 93)。</p> <p>また、上記国際会議の翌日（2 月 1 日）に、あらかじめ予定したように、アジア・アフリカ地域研究研究科の大学院生を中心に、英語によるセミナーを開催し、のべ 7 名の大学院生が発表を行った。事前に英語論文の書き方を指導したうえで、フルペーパーの作成を行わせ、その成果はプロシーディングズとして刊行した (<i>Tradition and Transformation in the Past and Present</i>, Center for Islamic Area Studies at Kyoto University, 2016, pp. 61)。このセミナーにおいては、本経費で招聘した上述の 2 名がコメンテータを務めた。</p>